

大内研究室



エネルギーの高効率利用と資源循環への挑戦

持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター

工学系研究科 マテリアル工学専攻

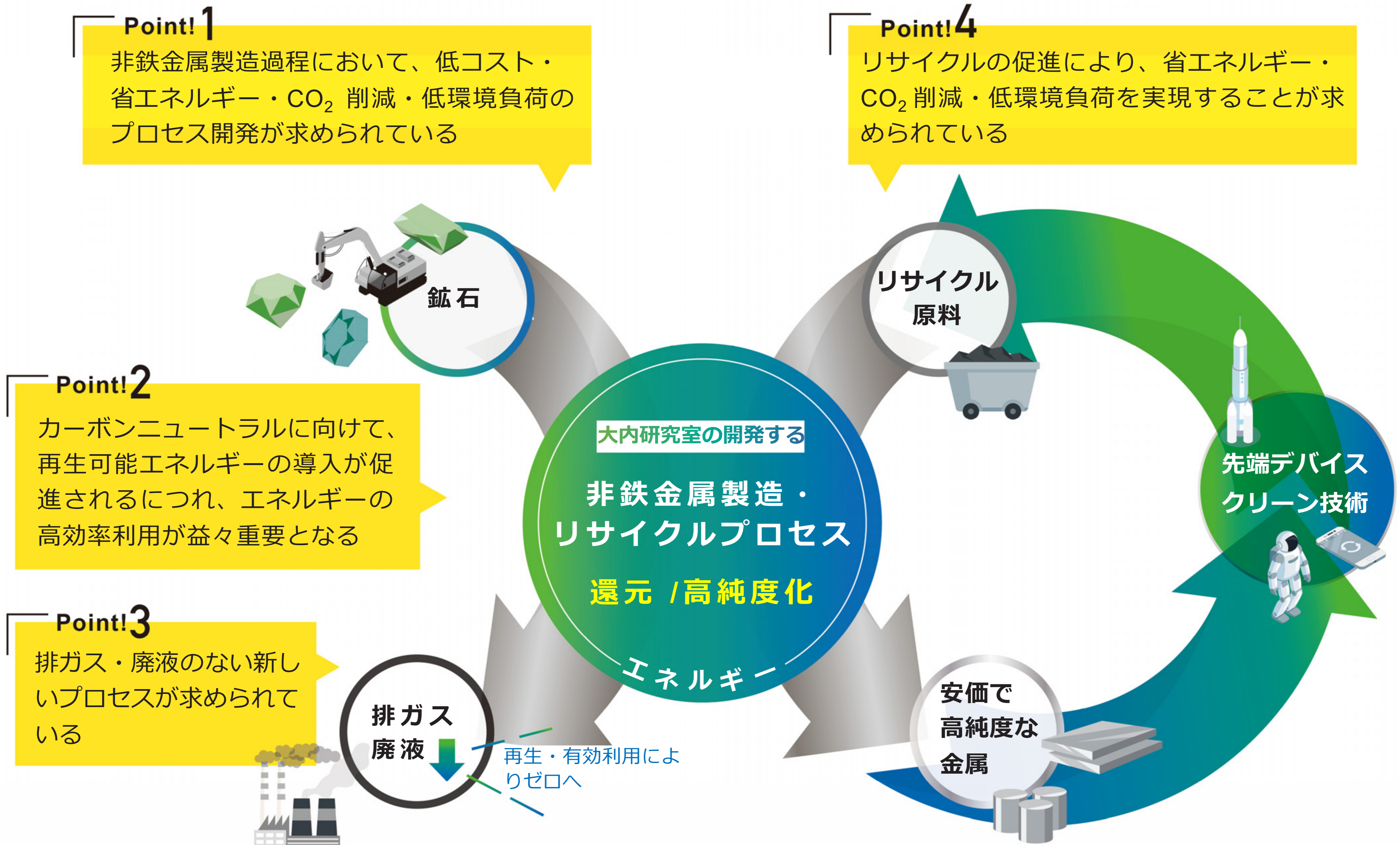
エネルギー・材料物理化学

<https://www.ouchi.iis.u-tokyo.ac.jp/>

エネルギーを金属材料へ！

大内研究室が取り組む 4 つの課題

大内研究室では、「**エネルギーの高効率利用と資源循環への挑戦**」という標語を掲げ、**非鉄金属の高効率製造プロセス**および**リサイクルプロセス**の研究開発に取り組んでいます。エネルギーを金属の形へと高効率に変換し、先端技術の発展に寄与するとともに、資源循環を実現する革新的リサイクルプロセスを開発し、持続型社会の実現に貢献していきます。



KEY RESEARCH TOPICS

貴金属

金や白金族金属などの貴金属は、先端デバイスを支えるキー材料。貴金属が熔融塩中に陰イオン（アニオン）として溶解する現象と熔融塩電解を組み合わせた「アノード電析」を用いて、スクラップから貴金属を選択的に分離・回収する全く新しいリサイクルプロセスを開発する。

活性金属

リチウム、ナトリウム、カルシウム、マグネシウム、アルミニウム、亜鉛、希土類金属などは、エネルギー材料、機能性材料、金属製造の還元剤、構造材料などに用いられる。熔融塩中での電気化学反応の制御により、革新的製造・リサイクルプロセスを開発する。

チタンのリサイクル

鉱石から金属チタンを製造する工程は、高消費エネルギー・高CO₂ 排出量の、極めて特殊な多段プロセス。長時間を要し高コストなため、これに代わる、チタンスクラップから酸素を効率的に除去し、鉱石からの一次生産品よりも純度の高いチタンに「アップグレードリサイクル」する新しいプロセスを開発し、低コスト・省エネルギー・CO₂ 削減・低環境負荷のチタン製造を実現する。

めっき技術

先端デバイスの配線、接点、防食、機能部品、触媒などの作製に不可欠な技術。金属イオンの挙動、電極表面の電位や結晶構造などの制御により、所望の機能と形状を有する構造体・膜を形成する革新的なめっき技術を開発する。

